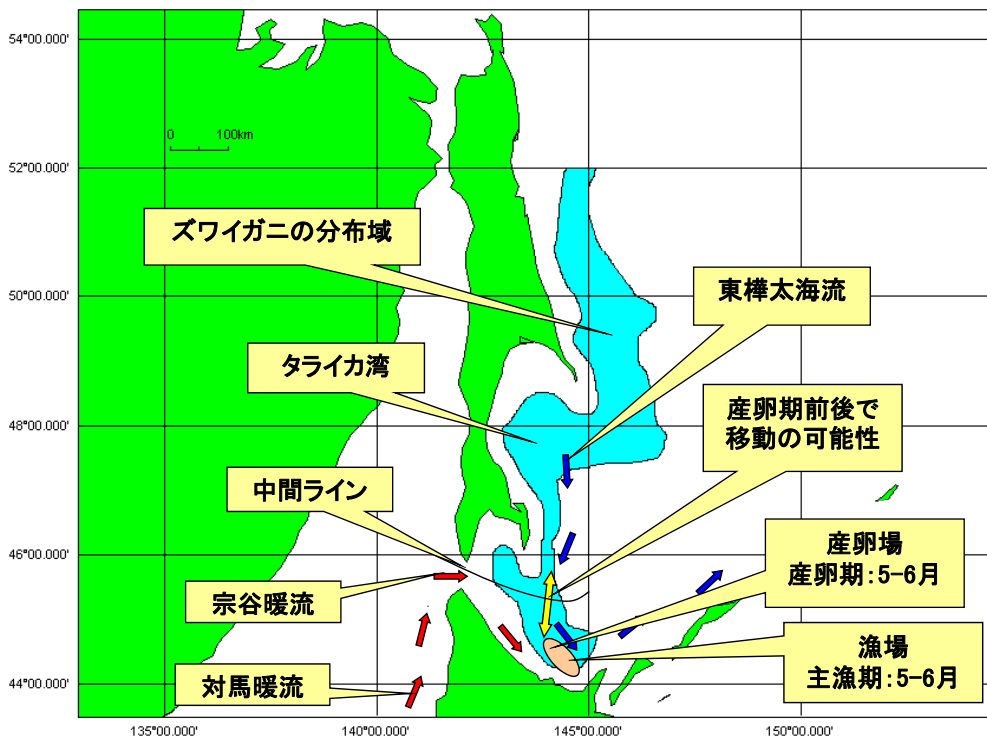




ズワイガニオホーツク海系群 平成27年度資源評価結果

1

生活史・漁場形成



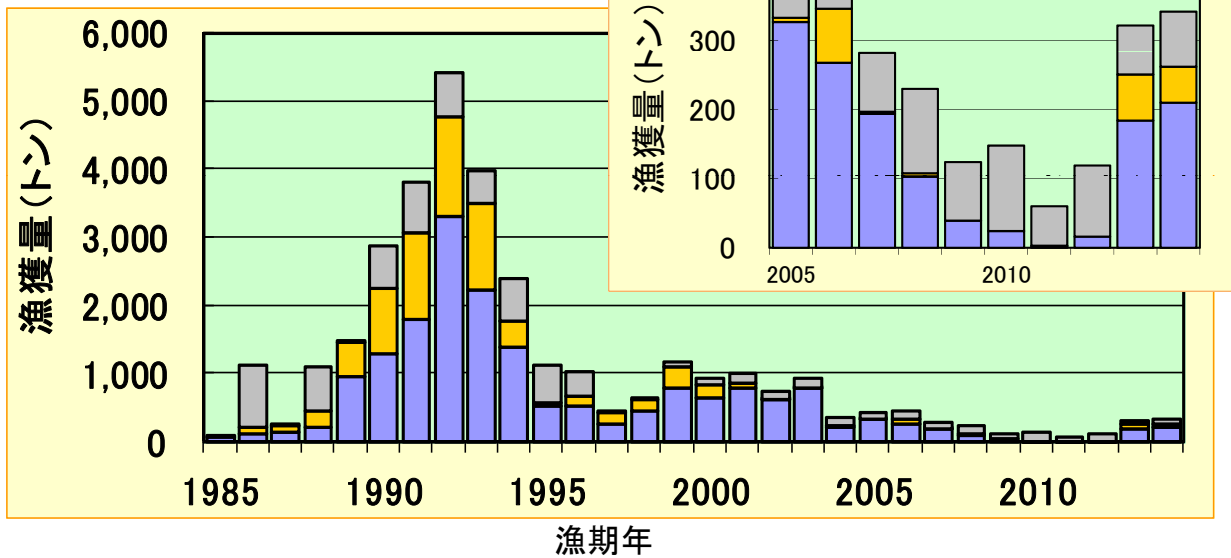
● 漁場は分布域の南端

沖合底びき網漁業: 5~6月の産卵期、北見大和堆北西部に集中
・ 刺し網(沿岸漁業)でも漁獲
・ 分布水深: 100-300m、♀は100-200m、♂は150-300mに多い

2

漁獲量の推移

漁期年：7月～翌年6月

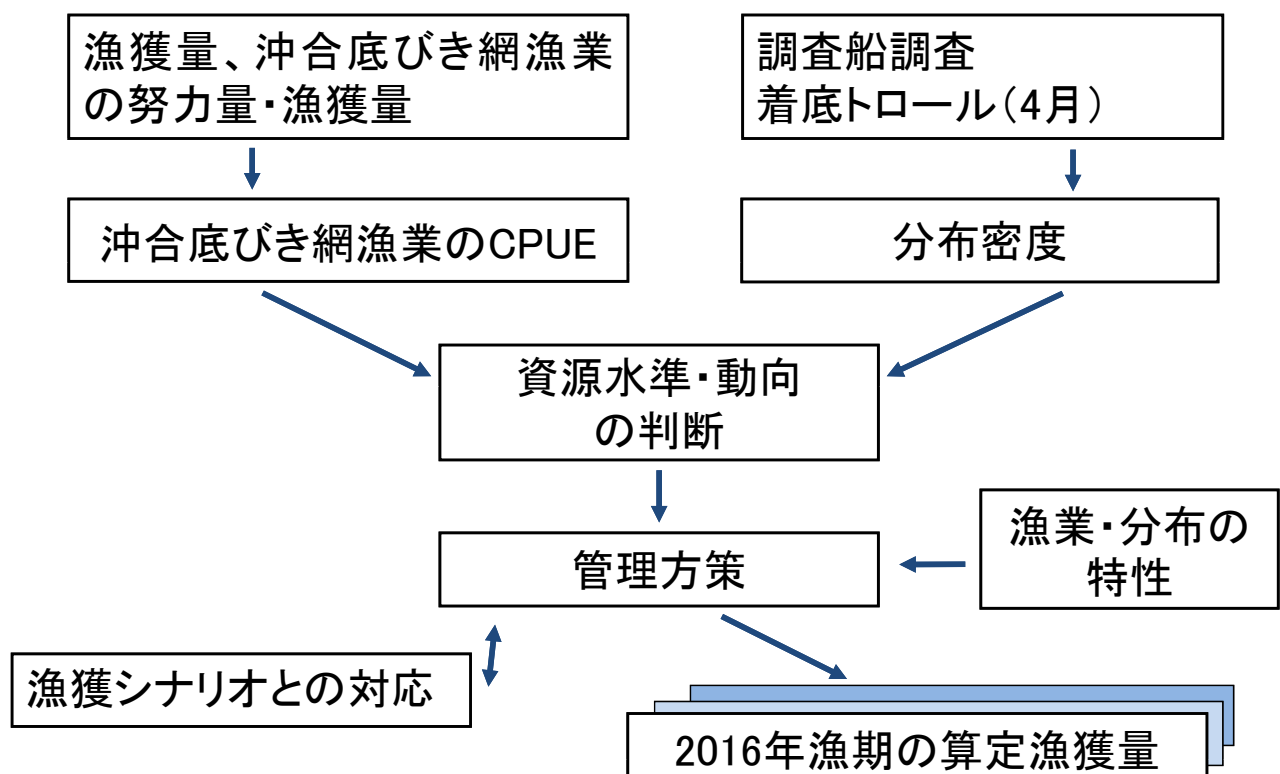


- 2012年漁期漁獲量:119トン
- 2013年漁期漁獲量:322トン、2014年342トン(～2015年6月)

*1996年漁期までは「かに類」として集計

3

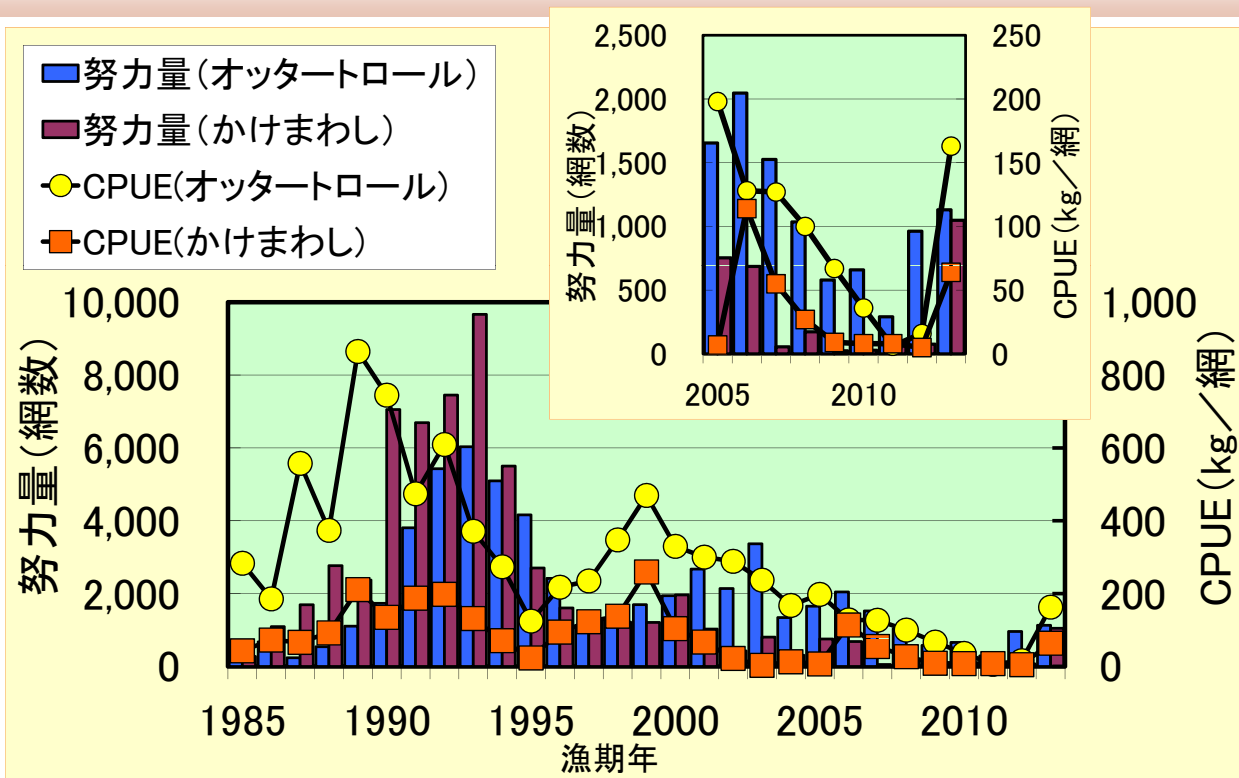
資源評価の流れ



*分布範囲がロシア水域にまたがっており資源量やF値等の算定が困難であるため、ABC算定規則2-1)を準用し算定漁獲量を設定

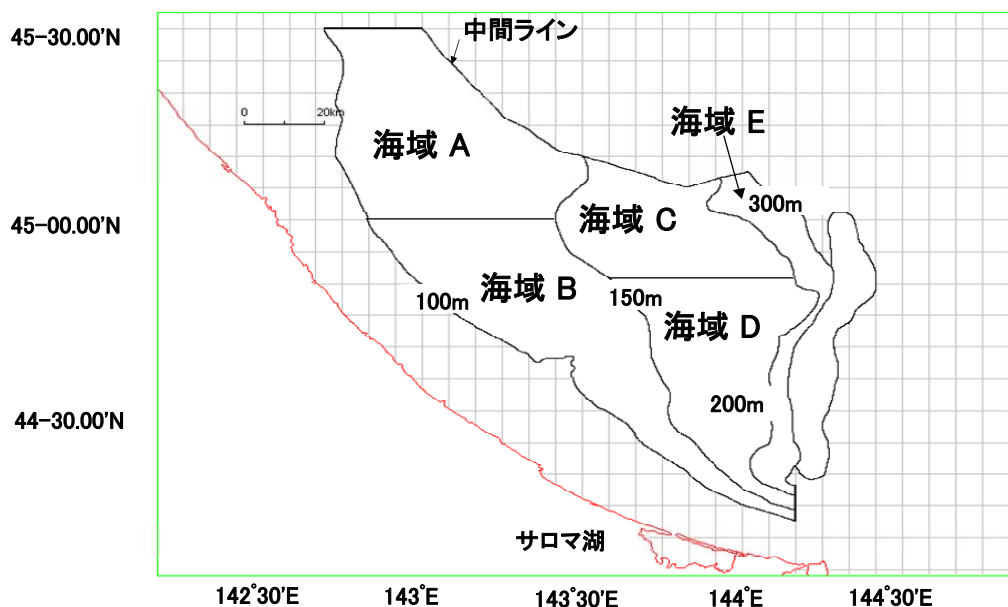
4

沖合底びき網漁業の努力量・指標値の推移



1996年漁期まで「かに類」として集計、2013年漁期までの確定値を表示

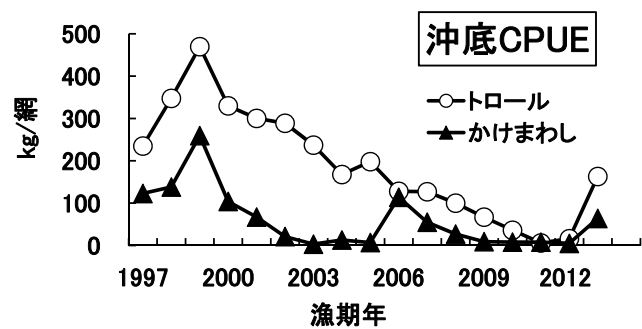
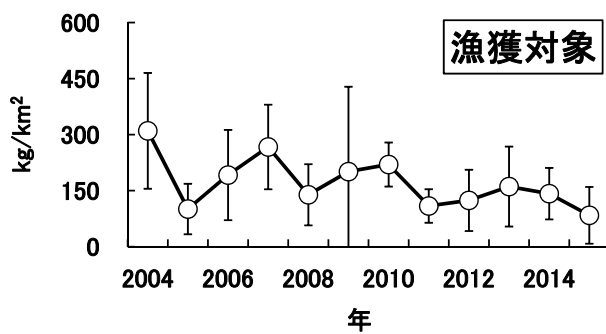
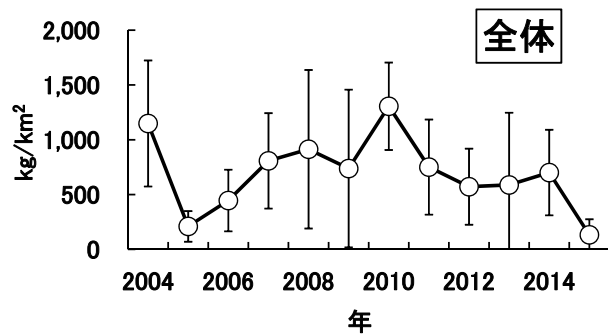
資源状態：調査船による魚群分布調査



目的:

- ズワイガニ等の重要底魚類の分布状況を把握
- ズワイガニの季節移動を推定するための情報収集
- 分布密度を推定して資源量の指標値として用いる

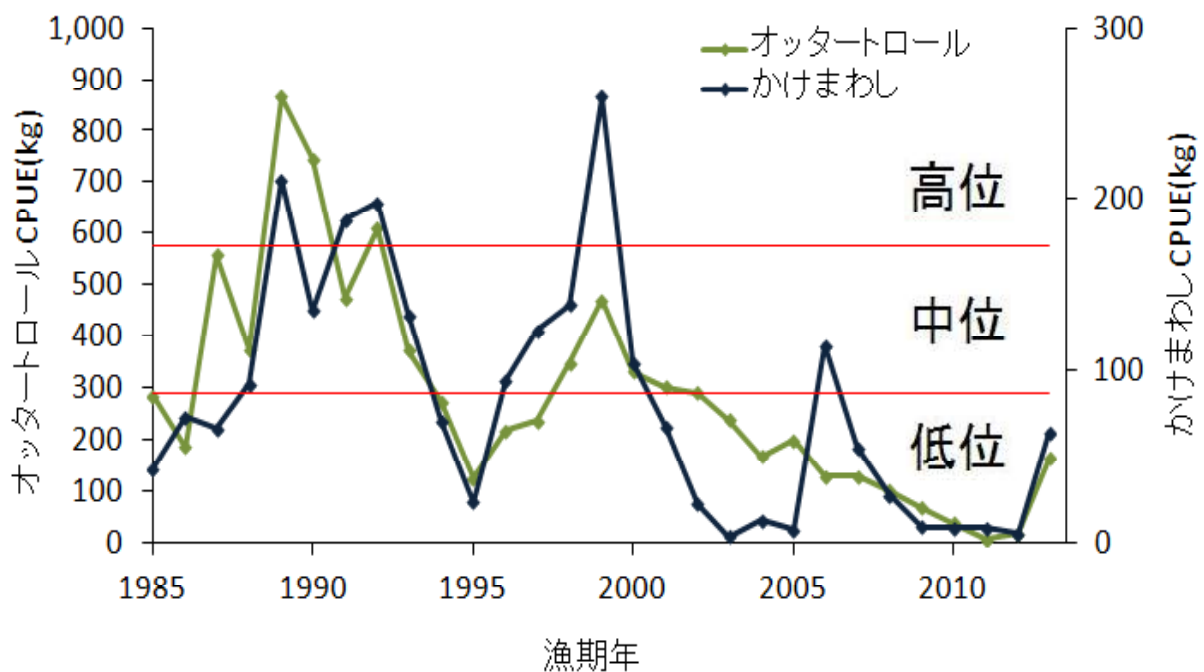
資源状態：分布密度の推移



- 分布密度は、増減を繰り返しながら推移し、全体では減少傾向、漁獲対象資源では横ばい
- 沖底CPUEは近年は低位で推移

7

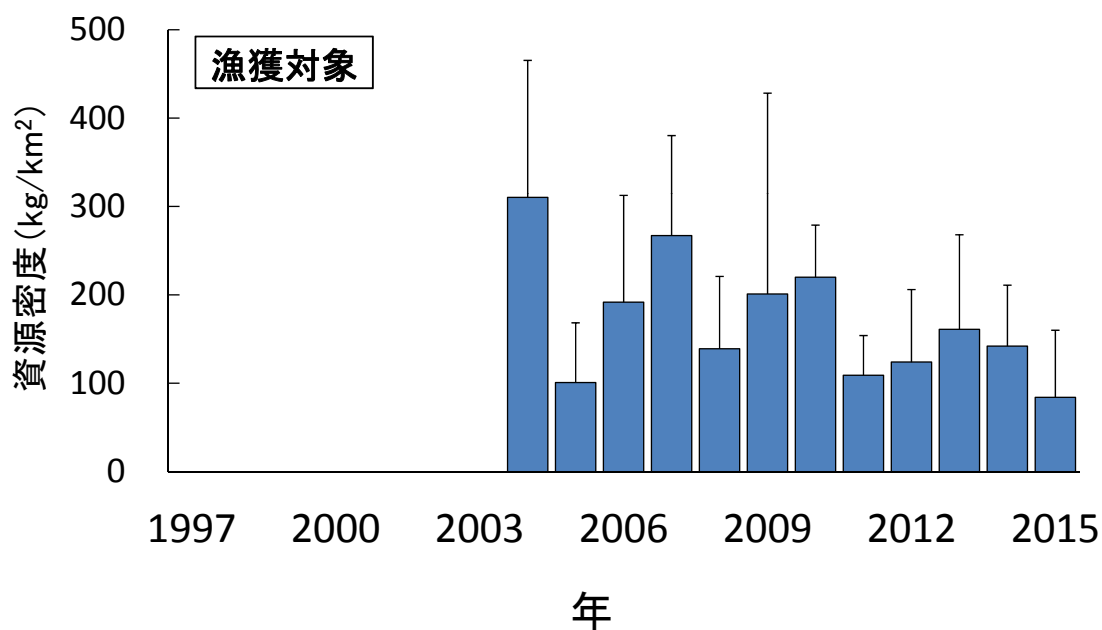
資源の水準



・過去29年間の沖底CPUEで判断：低位

8

資源の動向



- 2005年以降、分布密度(漁獲対象)= 横ばい傾向

9

資源評価のまとめと2016年漁期漁獲量の算定方法

- 資源評価のまとめ
 - 資源水準は低位、動向は横ばい(昨年度:低位・横ばい)
 - 資源評価に必要な情報は限定的であり、資源量推定や来遊量予測は困難
- 算定漁獲量
 - ABC算定規則 2-1)
 - $ABC_{limit} = \delta_1 \times C_t \times \gamma_1 = 1.0 \cdot C_{ave3-yr} \cdot 0.70$
 - δ_1 : 漁場が分布域の南端に限られており、漁獲努力量が資源に対して大きな影響を与えないと考えられるため1とした
 - C_t : 2012~2014年漁期の平均漁獲量($C_{ave3-yr}$)を使用
 - $\gamma_1 = 1 + k(b/I)$ 、 b と I は資源量指標値の傾きと平均値(2012~2014年漁期)、 k は標準値 1.0
- 管理基準
 - 資源の状態に合わせた漁獲

10

2016年漁期算定漁獲量

漁獲シナリオ (管理基準)	Limit/ Target	F値 (F _{current} との比較)	漁獲 割合	将来漁獲量		評価	2016年漁期 算定漁獲量
資源の動向に合わせた漁獲* (1.0・Cave3-yr・ 0.70)	Limit	—	—	—	—	—	180トン
	Target	—	—	—	—	—	150トン

*を付したシナリオは中期的管理方針に合致する